

あすへひとこと

若い人たちに語り継ぎたい。そして、次の世代に残してほしい貴重な話しをお届けします。

お年寄りたちの貴重な体験談 (第二十回)

飽食時代は子どもたちの心の喜びを奪った

昔は働く人の休みは、お盆とお正月しかなかったし、お正月というのは、暮れのうちから大掃除もちつき、しめ飾り、門松立てとどこの家でも大仕事だった。

昔のお正月は楽しかった。「もういくつ寝るとお正月…」という歌のとおりだった。時の流れにしろしはなはずなのに、一夜明けて元日がくれば空気に清らかさが漂い、どこもかしこも新年の喜びにあふれている。

大正、昭和初期の子どもの日常といえど、弟や妹のお守り、お使い、家事の手伝い、その上に、きびしい先生と親がいて、ささいな楽しみを見つけて暮らしていたものである。



上等の食べ物はお父さんだけが食べるもので、子どもは並みの食べ物で、量がたくなればよかった。

だから、お正月はとびきり楽しい、うれしい日だった。食べ放題、遊び放題、この日ばかりは親も小言を言わない。みんながにこにこしている。はしゃぎ過ぎて、その辺のものをひっくり返しても、げんこが飛んでくることも、きせるが飛んでくることもなかった。お正月はにこにこしているものだと、日本中の人が考えていたのである。

子どもの私たちは、応分の小遣い銭をもらい、晴れ着を着て、学校のお正月休みを思いきり楽しんで遊んだ。また、大きなお盆に山盛りのみかんがつつやと光って



いるのを見ると「お正月だ、お正月だ」と感激が込み上げてきたものである。皮をむいて口にふくんだときの清らかな冷たさ、甘い滴り、いくら食べても飽きなかった。かるたやすごろくに飽きて、火鉢のまわりに集まり、みかんを焼く。酸味のある特有のにおいがして、この焼きみかんというものも、こうばしくて、私たちはよくこれを喜んで食べた。お正月には箱に入ったみかんを買って、心豊かに新年を送ったが、子どもとみかんは切っても切れぬお正月の思い出なのである。

今では、お正月はめでたいものではなくなった。指折り数えて待つほど楽しいものでなくなったのは、日本が豊かになったということなのである。上等の食べ物はお父さんだけでなく、子どもも一緒に食べている。昔のように、年



たこあげ、こま回し、羽根付きなどお正月ならではの遊びが楽しかった

中しかられることもない。今、お正月は、お年玉の万札と共に子どもたちのところにやってくる。こたつの上に山盛りのみかんがピカピカしていても、殊^{こと}さらの喜びもなく、たこあげの男の子も、追い羽根(羽付き)の女の子もいない。「早くこいこいお正月…」と、あのわくわくする思いの中でやってくるお正月を、今の子どもたちは失った。

高齢者の語り あすへひとこと
第五集 邑楽町の盆と正月
(平成七年三月三十一日発行)より
「飽食時代は子どもたちの心の喜びを奪った」故・横山 松子さん
(水立大黒・二三区)



朝陽を浴びて
元気に育つ
(篠塚坪谷)



Photo 原田隆雄(記録ボランティア)



ひとりと From editors

▼あけましておめでとうございます。今月号の広報おうらは、12月28日に発行になりました。1月号にもかかわらず、年内中にお手元に届く町民の皆さんもいるかと思いますが。▼私の所属する企画課は役場庁舎の2階なのですが、窓辺に立つと「おうら中央公園やすらぎの池」に白鳥たちを眺めることができます。もうそんな季節になったのかと、時の流れの早さに無常ささを感じる今日のご。年齢を重ねると、時間がもっと早く感じるといわれますが、考えただけで恐ろしい…。▼でも、健康で毎日過ごせることに感謝しなければなりません。寒さ厳しくなる時節柄、皆さんもどうぞご自愛くださいませ。そして、今年がよりよい年となりますようご祈念申し上げます。(小林)

広報おうら

ORA TOWN Public Relations

平成25年1月号 No.556

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692 (住所記入不要)

☎ 0276-88-5511 (代表)

☎ 0276-47-5007 (企画課直通)

☎ 0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>

E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>

